独自の美意識を成立させた自然への愛着

東アジア [1]

日本

どの国においても、表現する手段に対する物理的な発想は、自然的発生の結果のように似かよってきます。例えば織、染織、刺繍、象嵌、絵具などです。しかし、わが国の誇るべき特徴は、それぞれの媒体において独自の美意識を確立しているところです。絣、友禅、小紋、蒔絵、螺鈿、漆器など、他国と一線を画する独自性をもっています。

CD 01_001〜008

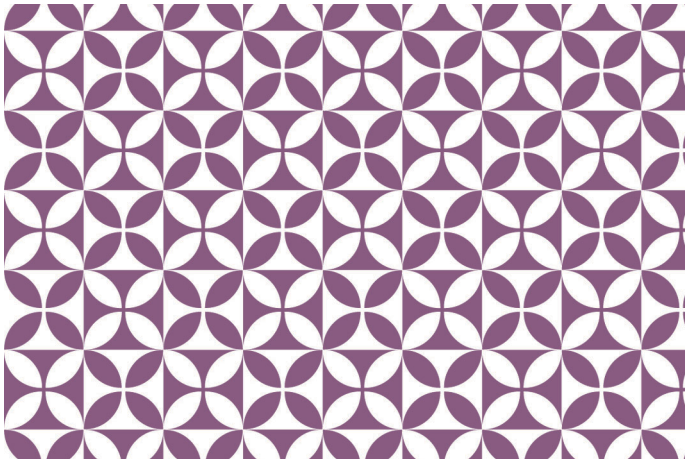
CD 01_001　日本／友禅着物の四季文様

春の梅、桜、秋の美しい形状をもつ大輪菊を雪輪の内外に収めて、季節を限定しない幅広い用途に応える手法と造形が見事です。

CD 01_002

日本
藍染の牡丹文様

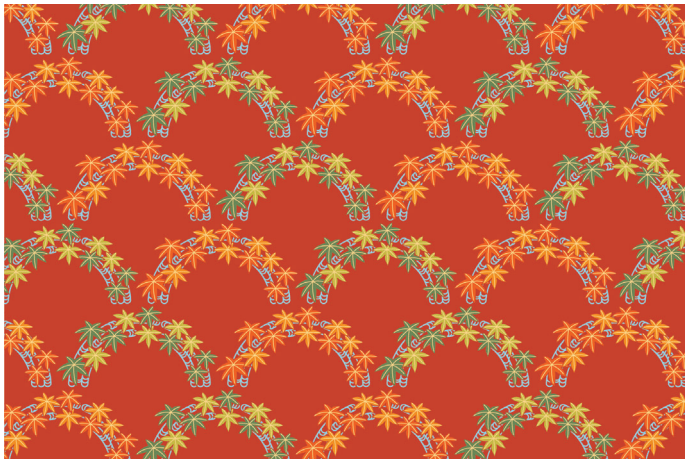
英語では「インディゴブルー」と訳されますが、やはり「青は藍よりいでて藍より青し」といわれるように「ジャパンブルー」の美しさを引き立てる日本の形を重要視しています。



CD 01_003

日本
小紋　七宝市松

完成された2種の小紋の混在が、オップアートのような新鮮さをつくりだしています。



CD 01_004

日本
中紋　紅葉青海波

私たちは、無限に発展する「青海波文様」を発明してくれた先人に感謝しなければなりません。